

11・1 労働者集会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2015年10月31日
No.335

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

「バリストで大学のあり方を問う!」

◆京大生・A君のアピール!

今日はバリケードを張ってストライキをしています。この状況を見て色々な意見が出ています。今日の授業を楽しみにしていた学生には申し訳ないと思う。

僕もこの時間で英語や経済を勉強したいという思いはある。だがしかし、今回僕が言いたかったことは、今この情勢の中で、「粛々と静かに行われている授業」が一秒たりとも許せない、ということです。そういう思いで僕たちは今日ここにバリケードを張っています。



私たちはこれまで大学当局に何度も申し入れを行いました。が、「受け付けません」と門前払いにされてきました。今年5月、国公立大の学費が私立大並みに値上げされるという提案がされました。僕たちが数百万円の奨学金を借りないといけないほど高い学費を「さらに上げる」と言っています。これは一体何なのか? 2004年の国立大学法人化以降、国からの運営資金はどんどん減らされています。その中で、「文系学部の廃止もしくは目的の転換」などと言われています。一方、理系学部は企業と共同研究してお金をもらい続けていく。企業は学問の正しさよりも、「モノを売って利益を得る」ことを最大の目的としています。その企業から資金をもらって研究を行うことが、本当の学問のあり方なのでしょうか?僕は違うと思います。

大学の軍事研究問題も同じです。戦後初めて、防衛省が大学に軍事研究費を支給し始めています。経団連が「武器輸出」を提言したら、大学もこれに従っていく。こういう状況を見過ごして、大学は今も「平穏に」授業を行っている。一体、この授業は何につながる授業なんですか?

先日、戦争法案が強行成立されました。来年3月までに施行され、5月から自衛隊が南スーダンPKOで駆けつけ警護をやらされる。勉強をしたくてもお金がない学生に奨学金を貸し、返せない学生は自衛隊として海外に送られる。これが今の大学のあり方です。絶対におかし

い。平然と授業が行われることが異常だと思うんです。

京都大学は昨年11月、学内に公安警察が潜り込んでいても一切抗議をしませんでした。こういう大学のあり方を問うために僕たちはストライキをやっています。みなさんもぜひ一緒に考えてください!

◆広島大学学生自治会委員長・森田寛隆君のアピール!

今回の京大ストライキに連帯するために広島大学学生自治会委員長として駆けつけました。今回のストライキをもってあらためて私たちは、「何のための大学なのか」を問い返したい。先ほど職員がこの反戦ストライキに敵対して「帰れ」と言ってきました。本当にこういうあり方が許せない! 戦争絶対反対のストライキに敵対してまでやりたい「業務」や「授業」って一体何なんですか? あらためて考えてほしいんです。ウクライナ、中東、朝鮮半島で戦争が始まろうとしている中で、私たちがどう生きていくのかが問われています。戦争反対のストライキに敵対してまでやりたいことって一体何なのか! 「京大当局は恥を知れ!」ということです。

私たちは未来を担う存在として大学に来たはずですが、しかし、授業を受けていく中で、こうした大学の支配のあり方が明らかになる中で、本当に大学に来た意義や学生の思いがすべて踏みにじられてきた。このストライキは、「授業」という支配を粉砕するストライキです。ストライキに敵対してまで授業をやる。業務をやる。「仕事だから」「授業だから」——まさに戦前、こうしたあり方によって労働者・学生が戦争に動員され、京都大学では原爆開発にまで行き着きました。私たちの「日常」の中にある支配——「授業だから仕方がない」「仕事だから仕方がない」というあり方によって、自分たちが学ぶ意義や働く意義を放り出してしまったことによって戦争への道が切り開かれたのではないですか?

先日トルコでは、戦争反対のデモに対する「テロ」が起き、100人以上の労働者・学生が殺されました。この状況の中でも、トルコの労働者・学生が戦争反対で立ち上がり続けていることに大きな力を感じます。

だからこそ私たちは、戦争絶対反対のストライキを貫徹したい。「授業」という支配をぶち破って大学や学問のあり方を問いたい。私たちは一体何のために大学に来たのか？ 大学は誰のためにあるのか？ 授業が今まさに、戦争協力の道具にされようとしています。防衛省が軍事研究の公募を行い、58もの大学がこれに応じ、4つの大学からの案が採択され、実際に軍事研究が進められています。私たちは、学問の意義を踏みにじって大学が戦争協力に率先して加担していくあり方に唯々諸々と応じて「仕方がない」と言って軍事研究するんですか？ 日々、「授業だから仕方がない」「反対したら研究室から追放される」「授業を受けなかったら単位が取れない」——こういう恐怖の中で私たちは支配されてきたのではないですか？

この支配をのりこえるストライキとともに立ち上がってほしい！ この支配をぶち破る中に戦争を止める力があります。ともに闘いましょう！

【10・29東北大集会うち抜く！】

「監禁致傷」でっち上げの大弾圧を打ち破って、全学連および東北大学学生自治会の団結はさらに強くなっています。10・21国際反戦デー闘争、10・27京大ストライキへと連続して決起し、10月29日には、東北大キャンパスで「『監禁致傷』でっち上げ弾圧を粉碎したぞ！ 京大ストライキに続こう！ キャンパス集会」を行いました。同日夕方には、弾圧粉碎の報告会を行いました。

昼休みには東北大キャンパスのど真ん中で集会。完全黙秘で弾圧を打ち破った当該の石田くん、安澤くん、古郡くんが明るく登場。本弾圧がスパイ化攻撃による学生運動と拠点(全学連と学生自治会)つぶしと福島圧殺攻撃

であったことを断罪し、団結の拡大で勝利したことを力強く宣言しました。続いて、4人が獄中にいる間に体制内勢力と対決して東北大の闘いを担い抜いた学友が、京大ストに続いて東北大ストを打ち抜く力強い決意を表明。

さらに、みやぎ連帯ユニオン、全金本山労働組合の長谷さん、教育労働者、動労千葉の中村仁さんも発言に立ちました。最後に、学生自治会副委員長の青野くんが行動方針として11・1集会と東北大反戦ストへの大結集を提起し、団結ガンバローで締めました。集会は10・16東北大集会に続いてすごい注目でした。弾圧粉碎闘争に注目していた学生がうれしそうに次々とビラをもらっていきました。東北大ストライキを期待する意見も続々出ています。本集会と11・1集会の成功を受けて、東北大生は反戦ストー安倍打倒へさらに突き進みます！（東北大・F）



【当面する行動方針】

● “闘う労働組合を甦らせよう！” 11・1全国労働者集会

11月1日(日) 正午～ 東京・日比谷野外音楽堂にて(集会後に銀座デモ)

呼びかけ：全日建関西地区生コン支部／全国金属機械労組港合同／動労千葉／国鉄闘争全国運動

● “つぶせ！「現代の赤紙」裁判員制度” 11・6最高裁デモ

11月6日(金) 正午～ 日比谷公園霞門集合

主催：裁判員制度はいらない！大運動

● “今こそ星野文昭さんを取り戻そう” 11・29全国集会

11月29日(日) 13時～ 東京・日比谷野外音楽堂にて(集会後に銀座デモ)

主催：星野文昭さんを取り戻そう！全国再審連絡会議

● 武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判控訴審一判決

12月3日(木) 13時半～ 東京高裁にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

● 武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて

